

宝くじ社会貢献広報事業

鈴鹿市・ベルフォンテン市
青少年相互交流事業

First visit 30th Anniversary

2018年7月25日～30日

受入れ報告書

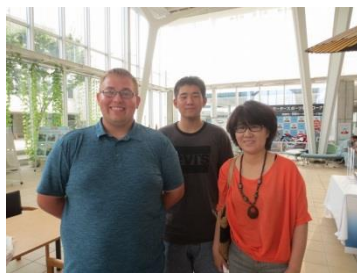
(公財) 鈴鹿国際交流協会

【7月25日(水)】

*鈴鹿到着



*ホストファミリーと面会



【7月26日(木)】鈴鹿サーキット

*モリワキレーシングの Pit 訪問

8耐に出るバイクも見せて頂きました。↓



↑チームディレクターの森脇 みどりさん(左)

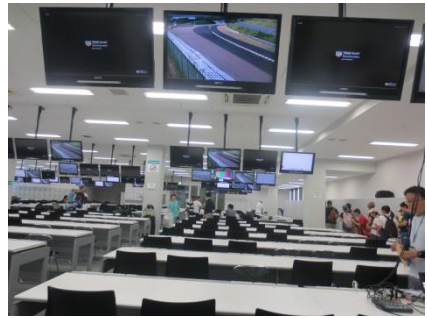
*鈴鹿サーキット 施設見学



↓表彰台 (ポータティウム)



↑計時の部屋



↑メディアセンター



*モートピア



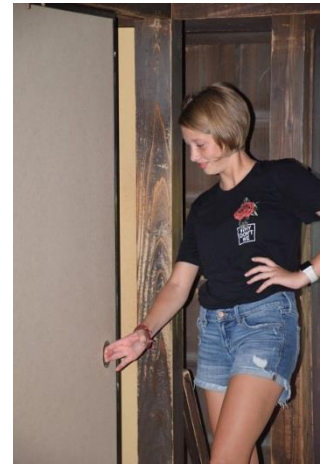
伊賀流忍者博物館

29年度、鈴鹿の派遣生がベルフォンテンを訪問した際、アニメで人気の高い忍者のプレゼンテーションを行い、忍者の任務や生活、衣装や持ち物などを紹介したため、今年度も引き続き忍者について学んでもらおうと、実際に忍者博物館を見学し、様々な体験をしてもらいました。

* 手裏剣投げ体験



* 忍者屋敷のからくり見学



* 忍者衣装試着体験



【7月27日(金)】

市長・教育長表敬訪問



進行内容

- ① 鈴鹿サイドメンバー紹介
- ② ベルフォンテンメンバー 日本語で自己紹介
- ③ ベルフォンテン市長からの親書受け渡し
- ④ 鈴鹿市長 挨拶
- ⑤ ベルフォンテンメンバー プレゼンテーション
- ⑥ 質疑応答
- ⑦ 鈴鹿市教育長 挨拶
- ⑧ ベルフォンテンメンバー 歌のパフォーマンス
- ⑨ お土産&記念写真

*ベルフォンテン市長からの親書の受け渡し



R. BENJAMIN STAHLER
Mayor
937/592-4376



DAVID J. HENRY
Service Safety Director
937/592-6807

CITY OF BELLEFONTAINE

135 NORTH DETROIT STREET BELLEFONTAINE, OHIO 43311-1476

鈴鹿市長 末松則子 様

FAX NO. 937/592-4218

謹啓

末松市長様並びに鈴鹿市民の皆様にはますますご健勝のことと存じます。友好協定調印25周年のお祝いをしたのが昨日のことのようです。その節の25周年記念事業は両市にとって特別な意義のあるものでした。この両市の親密でかけがえのない関係をより強固なものにするべく今後またゆまぬ努力を続けてまいりたいと思います。

この度もベルフォンテン市からの派遣団を迎えていただいたこと、市長様はじめこのプログラムに関わる職員の方々、更には市民の皆様へ感謝しております。今回の派遣団も当コミュニティーから集まった素晴らしい生徒が参加しているグループです。この度の派遣団には中学生だけでなく高校を卒業して間もない参加者など年齢層が高い学生もいることは喜ばしいことだと思っております。また、今回の派遣団に参加するにあたり、準備の一環として日本語の勉強をしたことも大変素晴らしいことです。

当市からの派遣団のホームステイを受け入れてくださったご家庭にもお礼を申し上げます。ホームステイをさせていただくことは派遣団に参加しているすべての参加者にとって非常に有意義な経験となるはずです。この経験を通して、派遣生達はホストファミリーの生活を真に理解し、生涯にわたっての交友関係を築く機会を得ることでしょう。

私は派遣団の一行が当市に帰りまして今回の体験を聞くのを心待ちにしております。そして、友好都市交流が今後共長きにわたり発展していくことを願っております。鈴鹿市並びにベルフォンテン市の歴代の市長も、素晴らしい両市の関係が発展し続けていることに、きっと満足してくれるものと確信しております。

末筆ながら、鈴鹿市の益々のご発展をお祈りすると共に、近い将来またお会いする機会があることを楽しみにしております。

謹白

2018年7月20日

ベルフォンテン市長

ベン・スターラー

*ベルフォンテンメンバーによるプレゼンテーション

オハイオ州についてのトリビアクイズをしました。例えば・・・

How many astronauts are from Ohio? オハイオ州出身の宇宙飛行士は何人いるでしょう？

A. 4
B. 17
C. 24
D. 33

24 Astronauts are from Ohio including some famous astronauts:

John Glenn - First US citizen to orbit the earth

Neil Armstrong - First person to step foot on the Moon.

24人の宇宙飛行士がオハイオ出身です。とりわけ有名なのは・・・

アメリカ人で初めて地球周回軌道を飛行したジョン・グレン

人類で初めて月面に降り立ったネイル・アームストロング




What is the State Fish of Ohio? オハイオ州の魚はなんでしょう？

A. Tuna (マグロ)
B. Walleye (スズキ目で最も大きいウォールアイ)
C. Sardine (イワシ)
D. Carp (コイ)

The Walleye is an edible (and tasty!) fish that grows to be about 80cm in length weighing 9kg.

ウォールアイと呼ばれるスズキ目の魚は食べることができます(美味しいです!)、全長80センチメートル、体重9キログラムぐらいまで大きくなります。



Of the USA's 45 Presidents, how many of them have been from Ohio? 45人いる歴代アメリカ合衆国大統領のうちオハイオ州出身者は何人でしょう？

A. 0
B. 7
C. 17
D. 27

Ohio has been home to 7 US Presidents second most of any State! Virginia holds the title of the most with 8.

オハイオ州出身の大統領経験者は7人でバージニア州の8人について全米で2番目です。



このような問題が全部で、10問ありました。出席者全員が楽しみながらオハイオ州について学ぶことが出来ました。質疑応答の時間には、教育長より「オハイオ州出身の大統領の名前を全部言えますか？」と逆質問があり、派遣生達は慌てていました。引率者の Kris さんが覚えている限り答えてくれました。

*ベルフォンテンメンバー 歌のパフォーマンス

オハイオ州立大学の校歌を歌いました。オハイオ州では結構有名な歌のようで、OHIOのところを手で表します。とても簡単な歌なので、みんなで一緒に踊りながら歌いました♪



議場見学

時間の都合により、どの席に誰が座るかの説明と議会開催の簡単な説明をして写真をとりました。



鈴鹿市不燃物リサイクルセンター

まずはじめに、リサイクルセンターの職員の方より、施設の概要説明、鈴鹿市のゴミについて、家庭から出るゴミの分別やその量等について説明があり、その後、この施設で不燃物ゴミがどのように処理されているかについて、スクリーンでDVDを観ました。



「鈴鹿市は、ゴミを出すのは有料ですか？」の質問に、リサイクルセンターに持ち込む場合、500 kg 以下は無料だが、それを超えると有料になると説明すると、ベルフォンテンも似たようなシステムなのか皆一様に頷いていました。

その後、施設の見学ツアーに出ました。不燃物ゴミとして出されたごみの中で、処理できないゴミが混じっているのを取り除く作業を見ながら、プラスチックゴミと不燃物ゴミの違いなど実際に取り除かれたゴミを確認しながら学習しました。

各市町の処理場によって、悪臭の度合いが違っていているようで、鈴鹿市は、市民の分別が行き届いているせいか、それ程深刻な悪臭がしておらず、優秀な方です。と説明がありました。



合川小学校訪問

*校舎見学

アメリカと日本では校舎の作り方が全然違うので、まず校舎の見学をしました。



市教育委員会で働く ALT が案内役を務めてくれました。

学校の廊下に飾ってあるトロフィーや賞状の説明、廊下に手洗い場があること、ごみの分別のこと、教室の中に

ロッカーがあること、放送室があることなどを見学しました。

アメリカの生徒にとっては、特にゴミ箱や水道などは自国とは違った景色で珍しかったようです。

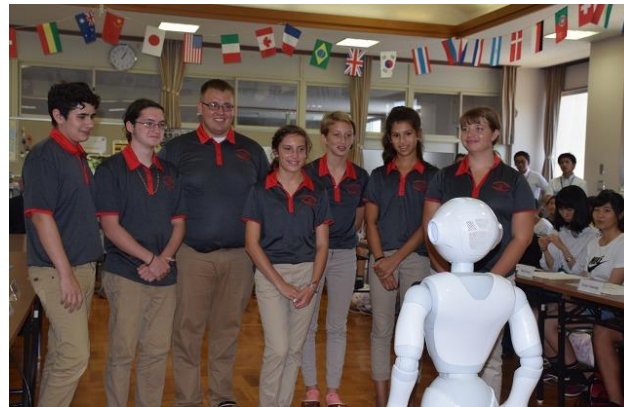
ホストファミリーの子ども達には、逆にアメリカの校舎はどうなっているんだろう？という興味が湧いたと思います。

当たり前と思っていたことに違いがある、という点に気付くことは大切です。



*環境フォーラム

今回のベルフォンテン事業の目玉は環境フォーラムでした。昨年鈴鹿からベルフォンテンへ行った派遣生のひとりが、ホストファミリー宅で、ご馳走を沢山出して頂いたのだが食べきれず、残った料理を全部惜し気もなく捨てていたのがもったいなかった、と帰国報告で述べたことがきっかけとなり、今年、両市の学生（ベルフォンテン派遣生と昨年ベルフォンテンへ行った鈴鹿の派遣生）で食品ロスの問題等環境について話し合う場を設け、意見交換したいという趣旨で、このフォーラムを行うことになりました。場所は、合川小学校のレインボーボールという大きな教室をお借りしました。



合川小学校の5・6年生児童や先生方、そしてペッパー君に歓迎されて教室に入りました。ペッパー君は、英語でベルフォンテン派遣生達を Welcome してくれ、ジョークも交えての受け答えに、ベルフォンテンメンバーも興味津々でした。

次は、合川小学校児童とのアイスブレイクタイム。

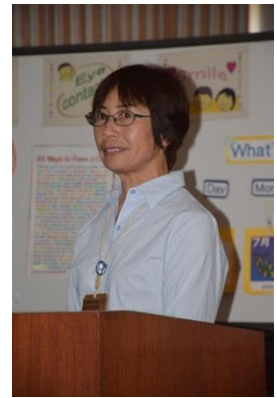
ALTが出した日本語を英語にして、そのアルファベットの数でグループを作ります。そして、そこで自己紹介などをし合って緊張を解きました。



そしていよいよ環境フォーラムを開始。

最初は、環境講演会をしました。講師は、三重県環境学習情報センターから木村京子さんに来て頂き、主に食品ロスの問題についてお話を頂きました。

木村さんは、まず、日常でゴミとして捨てられている食品についてお話をされました。世界で捨てられてしまう食品は、年間 13 億トンと言われていて、世界の食品の約 3 分の 1 にあたること。日本の食品廃棄物は、2,775 万トンで、この内まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスは 621 万トンだということ。



そして、なぜこのようなことが起こるのか、食品ロスをなくすにはどうすればよいと思うか？児童や学生に問いかけました。

初めは驚くことに、合川小学校の児童たちが、とても積極的に手を挙げて意見を言いました。それにつられ、鈴鹿の派遣生 OB や、ベルフォンテンメンバー達も徐々に意見を言うようになりました。

「食品ロスをなくすためにどうすればよいか？」・空腹で買い物に行かない。料理を作り過ぎない。

賞味期限を良く見て気を付ける。皮を厚く剥き過ぎない。好き嫌いをして残さない。外食した時は、ドギーバッグで持ち帰る。残った食品は、生活に困っている人達に分けたらどうか？などなど、様々な意見が出ました。子供達が考えるきっかけをもらい、どうしてそうなるのか？ではどうすればよいか？共に考え、意見を発表する貴重な機会となりました。

次に、ベルフォンテンメンバーが、「ローガン郡におけるリサイクルと環境問題の取り組み」について発表をしました。

ベルフォンテン市があるローガン郡には、リサイクルセンターが 16 か所あること。ローガン郡でリサイクルできるものは、金属・プラスチック・ガラス・新聞紙等の紙類で、去年は、3,310 トンもの金属がリサイクルされ、そのうち 2,170 トンは、持込みによるリサイクルだったこと。



ローガン郡にあるホンダは、風力発電の導入を支援していて、2013 年に始まった風力発電プロジェクトは 2 基の風力発電機ではあったものの、施設の使用電力の 10% に相当する電力を生み出し、その年間発電量は 800 世帯の電力消費量を十分にまかなうことができる発電量なのだと紹介がありました。

ホンダがローガン郡の施設で廃棄物ゼロの施設になる計画を発表したことを受けて、ローガン郡も 2020 年までに廃棄物ゼロの自治体になることを目指した取り組みを発表したそうです。





次に、鈴鹿の派遣生 OB メンバーによる発表をしました。

故ワンガリーマータイさんが推奨した日本語の“もったいない”。この言葉を紹介するところから始まり、食品ロスについてできること、節水や節電について私たちがしていること、鈴鹿市のグリーンカーテンや Cool Choice への取り組みなどを紹介し、もったいない精神を世界共通語として地球の環境を共に守ろう ♪ と呼びかけました。

MOTTAINAI
もったいない

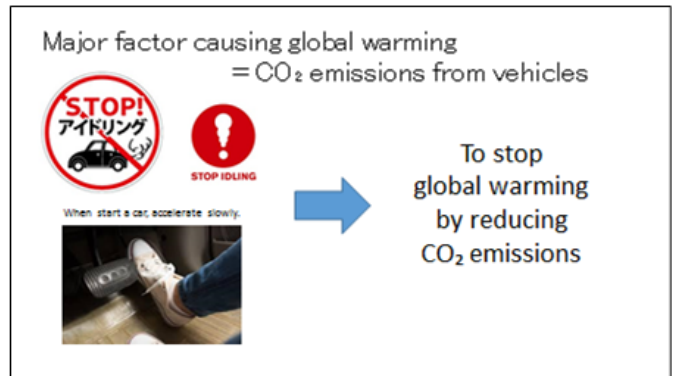
みなさんは、「Mottainai=もった、ない」という言葉を知っていますか？



そこで、日本人がよくやっているエコ活動をご紹介します。
日本は、バスhtubにお湯をためてお風呂に入りますが、その時、お風呂のお湯を溢れさせないように気をつけたり、例えば、顔を洗っているとき、歯を磨いている時などにシャワーを出しっぱなしにしない、といった点に気をつけています。
また、無駄な洗濯をしない、お風呂の水を有効利用する。
例えばお風呂の残り湯を、洗濯に使ったりガーデニングの水やりにも利用したりすることで節水に取り組んでいます。



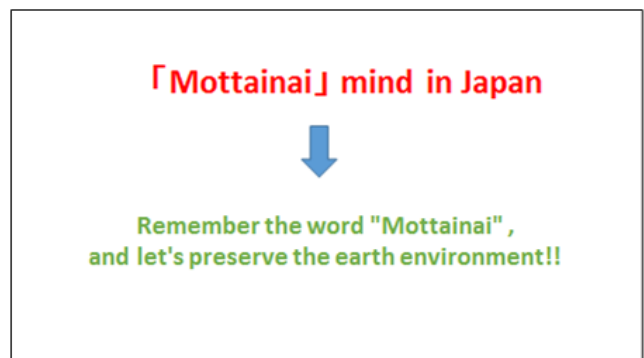
環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ マータイさん。マータイさんが、2005年に来日の際に感銘を受けたのが「もったいない」という日本語でした。



地球温暖化の大きな要因となっている車のCO₂排出量も、例えばドライバー一人一人が発進の際ゆっくり加速したり、アイドリングをやめたり、あるいはタイヤの空気圧を適正に保って車の燃費をよくするなどすれば、地球温暖化に歯止めをかけることもできるのです。
全国各地で、地球温暖化防止に向けて様々な取り組みをしていますが、最後に、鈴鹿市役所の取り組みをご紹介します。

Approach to Cool Choice of Suzuka City

1. Stop all idling in cars
2. Not forget to turn their faucet off after use
3. Purchase environmentally friendly items
4. Set ones air conditioning to around 32 degrees fahrenheit in summertime, rather than much colder temperatures
5. Cut back on waste
6. Leave lighting switched off when possible



*ベルフォンテンメンバーから歌のプレゼント

すっかりお馴染みとなった OSU(オハイオ州立大学)の歌を、ベルフォンテンメンバーが踊り付きで紹介をすると、会場に居た全ての人達と一緒に踊りはじめました。



*合川小学校児童による三重県の紹介

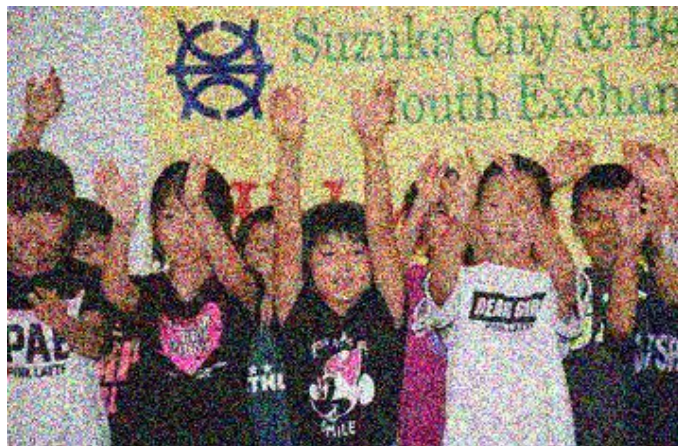
次に合川小学校の児童さん達が、三重県の紹介をクイズ形式にしてベルフォンテンメンバーに答えを訪ね、ベルフォンテンメンバーは、クイズに答えながら三重県のことを理解しました。



*合川小学校児童によるパフォーマンス

合川小学校のみなさんがとても表情豊かにメッセージを伝え、続いて校歌などの歌を披露して下さいました。みなさんの表現力に一同圧倒され、感動を覚えました。

合川小学校のみなさんは、本当に素敵な子供達でした。



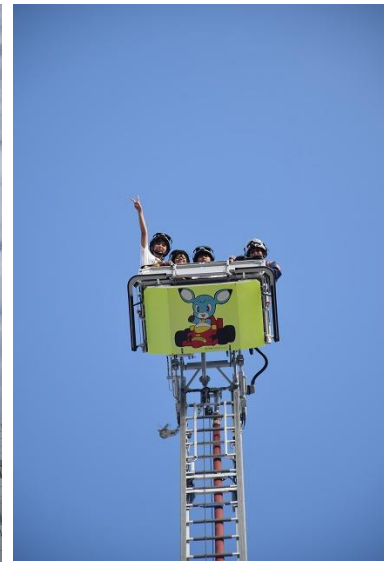
*記念撮影

最後にみんなで記念写真をとって、環境フォーラムは終わりました。



鈴鹿市消防本部 中央消防署 見学

予定していた時間より15分ほど遅れて消防署に入りました。
簡単な挨拶の後、早速はしご車に乗せて頂きました。



インド村で夕食

この日は、朝8時20分に市役所に集合してから、夜21時までスケジュールがタイトな一日でした。
お昼ご飯も教室で、簡単なおにぎり弁当でしたので、夜は、インド村にカレーを食べに行きました。

しかし、やはり時間に追われていたため、あまりゆっくりはできず、急いで食べて次の場所へ向かいました。



着物文化体験

文化会館にて、小林豊子きもの学院様の協力の下、風呂敷の紹介と十二単の紹介、そして着付けデモンストラーションのあと、十二単・束帯、振袖・紋付の試着体験を行いました。

風呂敷の紹介



今回「環境フォーラム」を行った経緯から、エコなもののひとつとして、風呂敷の紹介をしました。小林豊子きもの学院副学長の橋本豊梢先生が、風呂敷は、元々、銭湯に行く時に着物を包んで行き、脱衣所でその風呂敷を床に敷いてその上で服を脱いだという話をされました。そして、1枚の布でどんなものでも包めてしまうという説明をされ、スイカやワインなどをどのように包むか、実際に見せて下さいました。



それから、十二単を着付けて行く様子を橋本先生の説明に沿って見ていきました。

十二単は、平安時代、お姫様が部屋で過ごす服であったこと、小袖や袴の色で年齢や、既婚か未婚かがわかること、着付けをする女性は高貴な人に足の乱れを見せぬように袴をはくこと、また正面の人は立ってはいけないこと、12というのは12枚ということではなく、「沢山」という意味であることなど面白い話がたくさんあり、ベルフォンテンの学生だけでなくホストファミリーの子ども達にとっても大変興味深い内容でした。



裳抜きの殻の語源となった空蟬
源氏物語に出てきますネ

モデルとなった派遣団の引率者の方は、これほどたくさんの着物を、たった2本の紅白の紐で重ねていく様子に感心し、また、それを一息に脱いで裳抜けにし、空蟬の状態に置くとたいそう感動してみえました。



次に、この裳抜けになった十二単を派遣団とホストファミリーの女の子たちに着付け、束帯は、男性に着付けていきました。その後、振袖と紋付も試着しました。



【7月29日(日)】

フェアウェルパーティ

ホストファミリーのみなさまに感謝の気持ちを込めて、レストランビベルーデにてフェアウェルパーティを行いました。

*余興“南京玉簾-世界一周”



早く到着されたみなさんに、余興を楽しんでもらいました。英語落語の起時亭かんださんに、英語で南京玉簾をして頂きました。

*鈴鹿国際交流協会 理事長 挨拶



理事長：伊藤 輝義



ホストファミリーのみなさんに感謝の意を表しました。

*派遣団メンバー自己紹介



メンバーの自己紹介の後、ホストファミリーのみなさんにもオハイオ州のトリビアクイズをしました。

*副市長あいさつ及び乾杯の音頭



副市長からも、まずはホストファミリーのみなさまへのお礼がありました。そして、この日出席が叶わなかった末松市長から預かった Ben 市長への親書を代読し、代表の Kris Swisher さんに手渡しました。その後乾杯の音頭を取って頂き、パーティはスタートしました。

食事中の BGM の演奏は、当協会が春に行う国際交流フェスタ「わいわい春まつり」に例年参加してくれているフィリピンバンド The Sun にお願ひしました。「Stand by me」や「Heal the world」など、日本人も良く知っている歌を歌ってくれました。



*英語落語

ある程度食事を終えた頃、お楽しみのひとつとして「英語落語」を起時亭かんださんに披露してもらいました。初めに落語についての簡単な説明があり、その後「A man in a hurry」と「Monkey」という演目をしていただきました。ベルフォンテンメンバー達は皆、話に聞き入り、落語の面白さを少しは理解してくれたようで、やった甲斐がありました。逆に日本人のホストには、英語が分かった人、分からなかった人があり、特に子供達には、身ぶり手ぶりの表現の中から何かを感じ取ってもらえたり、英語への興味を持ってもらえたなら良かったと思います。



演目の後は、ワークショップをやりました。Monkey の演目にあつた表現をベルフォンテンメンバーにやってもらいました。アメリカの子ども達はもともと表現豊かで恥ずかしがらないので、とても上手に真似をして会場の笑いを誘いました。



*インタビュー

落語の後は、それぞれのテーブルを廻り、派遣生やホストファミリーにインタビューをしました。派遣生には、思い出に残ったこと、印象に残った場所、ホームステイをして感じたことなど発表してもらい、ホストファミリーには、ホストをした感想などを聞きました。皆、それぞれに大切な思い出が出来たようで、楽しく過ごしてもらったことを嬉しく思い、ホストファミリーのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

*派遣生から歌のプレゼント

恒例となったOSU(オハイオ州立大学)の校歌をみんなと一緒に歌って踊りました。子ども達だけでなく、ホストファミリーのおとうさん、おかあさんたちも一緒に踊って下さいました。



*カントリーロード ベルフォンテンバージョン

このベルフォンテン事業には、思い出の曲があります。2008年(平成20年度)にベルフォンテンへ行った時、鈴鹿の派遣生達は、カントリーロードの替え歌ベルフォンテンバージョンを歌いました。歌詞の中に、ベルフォンテンの主要な場所の名前が入り“sister city Bellefontaine”の歌詞もあります。これを初めてベルフォンテンで歌った時、メディアにも取り上げられて、地方のラジオ局で派遣生達の歌う曲が流されたり、歌詞に登場するチョコレート屋さんのオーナーは、感動して涙を流されました。

そんな思い出の曲を、このベルフォンテンプログラムに関わった人全員で歌おうと、The Sunのメンバーに演奏と歌をお願いし、ベルフォンテンメンバーにもホストファミリーにも、事前に歌詞と見本の音源を渡し、練習しておいてもらうようお願いしました。お蔭で、当日は、1回きりの本番でしたが、みんなで声を合わせて歌うことが出来ました。

とても良い思い出になりました。

*フィナーレ「フィリピーノ カ」で輪ダンス♪

そしていよいよフィナーレは、わいわい春まつりでも恒例の「フィリピーノ カ」です。これは、いつもおまつりの最後にお客様も巻き込んでみんなで一緒に踊る曲で、色々困難があってもそれを乗り越えて行きましょう♪という歌です。とても良い曲で盛り上がる曲なので、ベルフォンテンのみなさんにもシェアしたく、パーティの締めくくりにしました。

Take Me Home, Country Roads (Bellefontaine Version)

Almost heaven, Logan County,
Mad river mountains, Marmon Valley Farm,
Life is old there, older than the trees
Younger than the mountains, blowing like a breeze

Country roads, take me home
To the place, We be-long
Sister city, Bellefontaine
take me home, country roads

All my memories, in the summer time
Just like a magic, I will never forget
Ohio Caverns, Indian Lake Resort
First concrete street, Marie's chocolates

Country roads, take me home
To the place, We be-long
Sister city, Bellefontaine
Take me home, country roads

I hear her voice, in the mornin' hours she calls to me
The radio reminds me of my home far away
And drivin' down the road I get a feeling
That I should have been home yesterday, yesterday

Country roads, take me home
To the place, We be-long
Sister city, Bellefontaine
Take me home, country roads
Take me home, country roads
Take me home, country roads

refrain...



***鈴鹿市教育長より挨拶**



***ベルフォンテンメンバーとホストファミリーへのお土産**



最後に鈴鹿市教育長より締め挨拶をして頂き、その後、みなさんにお土産を渡しました。

お土産は、今回環境フォーラムをしたので、それに因んでエコバックを作りました。

ここで、参加者全員に自治総合センターより、今回助成金を頂いたこと、そして宝くじのくーちゃんの紹介をし、みなさんにできるだけ持って歩いて頂くように宣伝しました。

5色のエコバックの中に、市社会福祉協議会からご提供いただいたマウスパッドやクリアファイル、ノート、それから、当協会からのプレゼントの鈴鹿サーキットのキーホルダーとタオルを入れてみなさんにお渡ししました。

***記念写真**

派遣団とホストチルドレン



派遣団とホストファミリー



**派遣団とホストファミリー
と関係者全員で!!**

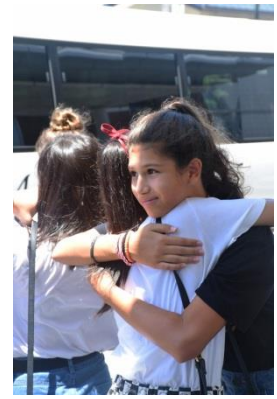


【7月30日(月)】鈴鹿出立⇒帰国の途へ

午前11時半、市役所に集合して、いよいよお別れの時がやってきました。

環境フォーラムで紹介した市役所のグリーンカーテンの前で最後の記念写真を撮りました。





子供たちはハグを何度も繰り返し、バスの待つロータリーに出ても、なかなか別れることが出来ませんでした。そのうちホストの男の子たちが泣き出して、それにつられて女の子たちも泣き始めました。

来年の夏には、きっとベルフォンテンで逢いましょう♪と約束をして、ようやくベルフォンテンメンバーはバスに乗り込んでいきました。



鈴鹿市・ベルフォンテン市青少年相互交流事業は、長年に渡って両市の若者が、海外でのホームステイを体験し、異文化に触れ、たくさんの人々と交流を重ねる中で相互理解と友好親善を図ってきました。

特に、鈴鹿市の中学生が初めてベルフォンテン市を訪問した年から30年という節目の年に、地球環境を守るための国際環境フォーラムを開催できたことは、将来を担う青少年にとって、グローバルな課題について国際規模で考える貴重な機会となりました。

ホストファミリーのみなさんや、関係機関の多大なる協力を得て、今年の実業を無事終えることができました。特に今年は、自治総合センター様のコミュニティ助成を受けることができ、より充実した内容で受け入れをすることが出来ました。

関係者のみなさまに感謝いたしますと同時に、青少年の相互交流が今後も続き、両市の友好関係がさらに深まるように取り組んでまいります。

あなたに夢を。街に元気を。

あべの



クーちゃん